

中国における歴史的な町並みの保存と活用に関する 基礎的概念整理と問題把握のための現地調査

Basic Concept Rearranging and Field Work for Problem Grasp about Preservation and the Utilization of the Historic Cityspace in China

張 伊欣
Yixin ZHANG

崇城大学大学院芸術研究科博士後期課程
Doctoral Course, Graduate school of Art, Sojo University

はじめに

報告者は、「歴史文化名城」（歴史的な町並み）⁽¹⁾の保存と活用に関する研究を行っている。その初段階として、本報告では、まず前半で、中国における歴史的な町並みの定義と分類や、中国における歴史的な町並みの保護の歩み、中国における歴史的な町並みの保護政策について、概念整理や歴史的跡付け、また基本的情報収集を行いたい。また、報告者は中国の歴史的な町並みの現状を把握するために複数の都市、具体的には北京市⁽²⁾の南鑼鼓巷⁽³⁾や済南市⁽⁴⁾の芙蓉街⁽⁵⁾、曲阜市⁽⁶⁾において現状調査を行ったので、後半ではそれらの都市の現状について報告する。

1. 中国における歴史的な町並みの定義と分類

1-1. 類型による分類

中華人民共和国国務院は1982年に文化遺産保護制度の一つとして、「国家歴史文化

名城」（中国における歴史的な町並み）を指定することにし、1982年、1986年、1994年の三度の審議を経て、99箇所をリストアップし、2001年にも2箇所、2004年にも1箇所を追加した。従って現在は102箇所が「国家歴史文化名城」としてリストアップされている。

中国の歴史文化名城は6類型に分類されているので、以下それらを列挙する。

① 古都

中国の八大首都⁽⁷⁾がこれに当たる。これらの都市の都市計画には当時の最高レベルの技術や知識が反映されている。例えば北京は元代から都とされ、明代に拡張された。同市には、明・清両時代の宮殿が完全に良好な形で現存しており、現在は世界文化遺産となっている。

② 歴史上の諸侯がいた都市や地方政権のあった都市

例えば、曲阜市がそれに当たる。曲阜市は魯国の都であり、また孔子⁽⁸⁾の故郷でもあるため、孔子府や孔子廟、孔子林が現存しており、世界文化遺産となっている。

③ 伝統産業で栄えた都市

例えば、「瓷都」（陶磁器の都）と呼ばれる景德鎮（江西省）⁽⁹⁾と、塩業で有名な自贡（四川省）⁽¹⁰⁾がこれに当たる。これらの都市の伝統産業は古来より国内外に名を馳せており、現在も衰えることなく続いている。

④ 近代の記念としての意味を持つ都市

近代において多くの革命事件が発生した都市であり、革命記念文物だけでなく、西洋の建築様式も併せ持った歴史的な都市がこれに当たる。例えば上海⁽¹¹⁾、天津⁽¹²⁾、青島⁽¹³⁾等がそうである。

⑤ 民族的・地方的特色を持つ小都市

地理的に辺鄙で経済的に遅れていたため、伝統的な空間構成や景観が完全に保存されている都市をさす。例えば平遙⁽¹⁴⁾や麗江⁽¹⁵⁾ではかつての都城がすでに世界文化遺産となっている。

⑥ 自然景観都市

優美な自然景観を持っていることから、古来より観光景勝地とされている都市を指す。多くの景勝地が感動的な逸話を持ち、自然景観と文学的景観が美しく相まった景観を形成している。例えば、杭州⁽¹⁶⁾、桂林⁽¹⁷⁾が挙げられる。

1-2. 地区による分類

「歴史文化名城」は地区として見ると、中原地区と西部地区に分けることができる。

「中原地区」は、中華文化の発祥地である黄河中流域並びに下流域にある平原のことで、古代には「中国」や「中州」とも呼ばれ、異民族から隔てられた文明の中心地であった。その後、南方へと発展していっ

た漢民族にとって、中原は文明の発祥地、また経済や文化、政治の主要発展地域を意味している。

また、「中原地区」（東南部）の特に沿岸部にある都市は、伝統産業の発展によって経済が多様化している。同地区は現在も経済発展を優先しているため、歴史的な町並みを保存するというより破壊してしまう傾向にある。

「西部地区」は、漢あるいは唐時代（前206～907年）にユーラシア大陸を横断していたシルクロードが繁栄していたため、後世の人々に中国西部の歴史の栄光をまざまざと思い出させる。しかし、度重なる戦乱や過度の開墾、気候の変化や交通の不便さといった要因によって、同地区は貧しく立遅れた地域の代名詞となった。「西部地区」は西北部と西南部に大きく分けることができ、西北部は陝西省、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区の3省2自治区からなる。大西北とも呼び慣わされるこの地域は、中国国土の総面積の3分の1に相当しているが、人口は少なく、全国の10分の1程度である。つまり、中国における最大面積、最少人口の地区といえる。かつて有名なシルクロードが貫いていた大西北には、近年では鉄道と自動車道路が全区を貫通し、大砂漠の奥地にも自動車道が開通している。さらに新疆ウイグル自治区のアラ峠における中国鉄道とカザフスタン鉄道との連結によって、第2のユーラシア大陸橋が生まれ、東方と西方はひとつに結ばれた。また西安や蘭州、ウルムチなどの航空中枢基地も加わって、便利な交通網が形成されている。

さらに、西南地区の自然と景観について一言すれば、それは実に多彩である。四川の九寨溝や長江三峡、重慶の大足石刻、雲南の石林、チベットのポタラ宮などの名所と歴史的文化的な遺跡は内外にも誉れ高く、区内には歴史的な文物の粋が一堂に会しており、少数民族が集居し、珍しい風土や人情にあふれている。これらはすべて観光業発展のための貴重な資源である。「対外開放」の拡大につれて、世界各地、特に東南アジア諸国から西南地区への観光客は年々増加しており、観光業は各国の人々が中国の西南地区を知る重要な窓口となっている。

2. 中国における歴史的な町並みの保護の歩み

多くのヨーロッパ諸国と同様に、中国における文化遺産の保全事業は、単体の文物（日本の文化財に相当）保護から始まり、次いで、文物を含む周辺環境へ広がり、さらに歴史的な町並み全体にまで拡張された。1930年代には当時の政府によって「文物保護法」⁽¹⁸⁾ が公布され、さらにこの頃伝統的な建築の保護を研究する民間学術団体「中国营造学社」⁽¹⁹⁾ も設立されて、体系的な建築史研究が行われ、中国の文化財である建築の保存の基礎が確立された。また、1949年の新中国の成立前日には、解放軍のある部隊が、清華大学⁽²⁰⁾の梁思成⁽²¹⁾教授に全国の重要建築文物をリストアップした「全国重要建築文物簡目」の作成や編集を依頼し、それを全軍に発行して、戦争中においてはこれらの文物の保護に注意するよう求めた。そして、社会の様々な方面において復興が

始まりつつあった1950年の建国当初に、政府は文物保存のための専門機関を設置し、関連する法令を発布した。そして1960年、国務院は日本の重要文化財に相当する最初の「全国重点文物保护单位」⁽²²⁾ を指定し、それ以後続けて三度にわたって指定を行った結果、重要文化財は合計750点になった。この他にも、省レベルの文物が約6,000点、市レベルのものが90,000点以上指定されている。

中国の研究者の間では既に1950年代初めに歴史的な町並みの保護に関する問題が注目されていた。例えば上述の梁教授は、「中国人民政府の行政中心区の位置に関する提案」において「北京の歴史都市としての価値は多くの芸術的な古建築だけにあるのではなく、より重要なのは各建築物相互の関係、つまりそれらがつくる古都全体の空間秩序にあるのであり、それらの広大で美しい全体の景観にあるのである」と述べている。同教授は「北京の城壁の保存問題に関する討論」において北京の旧城保存を主張し、西郊外にニュータウンを建設する計画案を作ったが、様々な要因から実現には至らなかった。しかし、歴史都市の文物や史跡、遺跡の保存はすでに当時から都市計画の重要な原則となっていたといえる。

3. 中国における歴史的な町並みの保護施策

中国の文化遺産の保護施策には2段階あり、その段階によって保護の責任範囲と対象は異なり、措置の内容も異なってくる。

施策の第1段階は文物の保護であり、そ

の歴史的・科学的・芸術的価値に基づき、国によって「文物保護単位」として指定される。保護の原則は文物の現状を変更しないという点にある。これらの文物は、一般に修理をしてから公開展示が行われ、保護に支障をきたさないという前提の下で適切な利用が行われる。また法律は、保護の範囲と建築規制ゾーンを規定し、新しく建てる建物の高さや外観の色、デザインなどに対して規制を加えたり、新しい建設を禁止したりしている。その目的は文物の形態が損われないように、可能な限り歴史的な環境を保存することにある。

第2段階は歴史的な町並みの保護である。典型的な伝統的景観を持った建築群や街区、村落などを、それらの価値に基づいて「歴史文化保護区」と定め、都市計画を通じて保護管理規定や重要保存地区の全体像と、保存建築の外観、改造更新が許されている建物の室内計画を策定する。さらにインフラの改善に努め、住居環境を改善し、生活レベルを向上させ、生活機能とコミュニティの伝統を維持し、社会生活が発展するよう事業を継続していくのがこの段階である。

4. 歴史的な町並みに関する現地における現状調査

続いて、現在の「歴史文化名城」を取り巻く状況を把握するために、報告者が行った北京市や済南市、曲阜市の町並みについての現地調査をもとに、現状のみ報告しておく。

① 北京市

報告者は調査対象として、北京で最近注目を集めている、前海から歩いて約5分のところにある南鑼鼓巷ナンロウグウシヤンを選んだ。

南鑼鼓巷でまず注目されるのは、地下鉄の駅である。駅の中には、南鑼鼓巷の地図や門などのモチーフを用いた空間デザイン(図1、2、3)が見られたが、装飾が過剰であるような印象を受けた。また、南鑼鼓巷の道の両脇には四合院という伝統的な家屋が並び、それらを改装したアーティスティックなインテリアのカフェやレストラン、ショップ(図4、5、6)が話題を呼んでいた。

同地で調査している中で気づいた問題点としては、狭い道路上を車や自転車などが走っていることや、町並みのサインを家屋の壁面に直につけていること、さらに古い町並みをテーマパーク化していることなどが挙げられる。

② 済南市

続いて報告者は済南市の芙蓉街で調査を行った。芙蓉街は済南市市内で唯一、歴史的な町並みが見られる場所であり、街路の長さは432 mであった。芙蓉街は済南市の中心部に位置し、街の両側には様々な売店が軒を連ねていたが、その多くは飲食店であった。1990年代に観光局から、芙蓉街の周辺地区も同街路に似せて歴史的な町並みにする計画案が提出されたが、そのようにすると芙蓉街の稀少価値が損なわれてしまうため、反対の声が上った。その結果、この案は採用されなかった。報告者も採用されなかったことに賛成であるが、実際に現地踏査してみると、芙蓉街には以下のような問題点が見出された。まず、芙蓉街が

テーマパーク化（図7）していることが挙げられる。また本来は目立たない場所に置くべき公共のゴミ箱が、人目につく道路の中央に置いてあり（図8）、しかもゴミがゴミ箱に捨てられずに散乱していて、街全体が不潔な印象になっていることが挙げられる。さらに、電線が低く道路に垂れ下がって消防車の侵入を妨げているというような、街の安全対策の不備（図9）も問題点として挙げられる。

③ 曲阜市

孔子の故郷であり、毎年多くの観光客が訪れている同市は、近年、歴史的な町並みを保護するために様々な保護政策を試験的に行ったが、曲阜市出身の報告者は、帰国したおり、それらの保護政策が必ずしも成功しておらず、以下のような問題点があることに気付いた。例えば、2013年5月に帰国した時には、三孔の近辺にアニメーションや3Gなどの新技術を用いて孔子時代の歴史を映像で再現する文化館（図10、11）が存在していたが、同年7月に帰国した時には、それはすでに閉鎖されてしまっていた。つまり、同館の設置は無謀な計画であったのである。また、三孔の一番近い所に曲阜の土産物を買える便利な商店街があったが、近年、曲阜市の中心部から離れた場所に新しく商店街や住宅街が出来たため、市民はそこに行かなくなってしまっていた。そこで同商店街は、再生のために商店街の約2/3を壊し（図12）、古い中国の建築スタイルで商店街を新たに建設していた（図13）。

おわりに

以上、本報告では、中国における歴史的な町並みの定義と分類や、中国における歴史的な町並みの保護の歩み、中国における歴史的な町並みの保護政策について概念整理や歴史的跡付け、また基本的な情報収集を行った。また、歴史的な町並みの現地調査を行ったことで、「歴史文化名城」の幾つかはテーマパーク化したり、ゴミ問題が発生したりする等の問題点を抱えていることがわかった。さらに、「歴史文化名城」に指定された後の対策がなされていないなどの問題点を明らかにすることができた。そこで今後は、明らかにした問題点の原因を研究を通して究明し、改善策を提案して行く予定である。

[脚注]

- (1) 1982年に中華人民共和国国務院が文化遺産保護制度の一つとして指定した。
- (2) 北京市（ペキンし、中国語：北京市、英語：Beijing）は、中国の華北の中央に位置する中華人民共和国の首都である。行政区画上は直轄市である。
- (3) 南鑼鼓巷（ナンロウグウシャン、中国語：南鑼鼓巷、英語：Nanluoguxiang）は、中華人民共和国北京市東城区に位置する街。
- (4) 済南市（さいなんし／チーナンし、中国語：済南市、英語：Jinan）は中華人民共和国山東省に位置する副省級市。山東省の西部に位置し、省都として省内の通商、政治、文化の中心としての地位を占める。市中を黄河が流れ、南には泰山が控えている。城内に「天下第一泉」と呼ばれる趵突泉をは

じめとする「七十二名泉」と呼ばれる水量の多く美しい泉水があるため、都市の別名を「泉城」という。豊かな自然と歴史資源を持つため、「国家歴史文化名城」に指定されている。

- (5) 芙蓉街は済南の特色のある街で、街にある芙蓉泉から名がつけられた。二つの官衙、貢院、府学文廟と旧市街の大通りに隣接している。金、明、清時代には、ここは文人墨客がお酒を飲みながら詩を詠む場所であった。現在の芙蓉街には賑わいがあるが、寂寥感も漂っている。
- (6) 曲阜市（きょくふし、中国語：曲阜市、英語：Qufu）は中華人民共和国山東省済南市に位置する県級市。省都・済南からは約130 kmに位置する。泗河（泗水）が東から西へ流れている。周・春秋時代の魯国の故知であるほか、孔子の生地として世界に知られている。曲阜には、中国政府の「国家歴史文化名城」の称号が真先に与えられたほか、1994年にはユネスコの世界遺産にも登録された。
- (7) 中国では、西安（曾ての長安）、北京、南京、洛陽の4つの歴史的に重要な首都を「四大古都」と呼ぶ慣わしがあった。ところが、歴史学者らの主張によって1920年代に開封が、1930年代には杭州（曾ての臨安）がこれに加えられて、「五大古都」、「六大古都」の呼称が生まれた。さらに1988年、地理学者の譚其驤は殷の都の跡である殷墟を評価してその所在地である安陽を追加するように提案した。また、2004年、中国古都学会は、商の時代以降3600年の歴史を持つことから、鄭州を追加した。その結果、今日では以上の8都市（西安、北京、南京、

洛陽、開封、杭州、安陽、鄭州）が「八大古都」と呼ばれている。

- (8) 孔子：（こうし、中国語：孔子、英語：Confucius 紀元前552年10月9日－紀元前479年3月9日）は、春秋時代の中国の思想家、哲学者。儒家の始祖。氏名は孔、諱は丘、字は仲尼（ちゅうじ）。孔子は尊称である（子は先生という意味）。実力主義が横行し身分制秩序が解体されつつあった周末、魯国に生まれ、周初への復古を理想として身分制秩序の再編と仁道政治を掲げた。孔子の弟子たちは孔子の思想を奉じて教団を作り、戦国時代、儒家となって諸子百家の一家をなした。孔子と弟子たちの語録は『論語』にまとめられた。
- (9) 景德鎮（けいとくちんし、中国語：景德镇市、英語：Jingdezhen）は中華人民共和国江西省東北部に位置する地級市。古来より陶磁器の生産地として有名。国家歴史文化名城に指定され、対外開放市でもある。
- (10) 自貢（じこうし、中国語：自貢市、英語：Zigong）は中華人民共和国四川省に位置する地級市。四川省の重要な工業基地の一つでもある。特に中国の「三線」政策により、内陸のこの地に化学工業が集積した。また、古代よりこの地で産出される「井鹽」（井塩）という塩は貴重なものとして各地へ売られ、製塩業や塩の売買、塩に関係する工業で財をなした富裕な商人が多く住んだ。近代的な製塩技術が導入されるまでは、製塩と塩取引で栄える自貢は中国でも豊かな都市の一つであった。
- (11) 上海（シャンハイし、中国語：上海市、英語：Shanghai）は、中華人民共和国の直轄市。世界有数の都市であり、同国の商業、

金融、工業、交通などの中心の一つである。

同市は、中華人民共和国の直轄市。

- (12) 天津（てんしんし／テンチンし、中国語：天津市、英語：Tianjin）は、中華人民共和国に位置する直轄市。国家中心都市の一つ。略称は津。天津は華北平原海河の五大支流の合流する所に位置し、東に渤海を、北に燕山を望む。市内を流れる海河は天津の母親河とも呼ばれる。環渤海湾地域の経済的中心地であり、中国北方最大の対外開放港である。首都北京市とは高速道路、高速直通列車、京津城際線によって0.5～2時間以内で結ばれている。元々は海河の河港であったが、河口の塘沽に大規模な港湾やコンテナターミナル、工業地帯が形成されている。中国の近代工業の発祥地でもあり、市内の5大通りは“万国の建物博覧会”と称される。経済成長率の高さはここ数年にわたり、全国トップ。
- (13) 青島（チンタオし、中国語：青島市、英語：Qingdao）は、中華人民共和国山東省に位置する主要な港湾都市。副省級市・計画単列市、国家歴史文化名城に指定されている。中国の海洋産業の中心都市であり、東部沿岸の重要な経済と文化の中心でもある。近代的な製造業やハイテク産業基地も立地する。また国際的な沿岸リゾート地、東北アジアの国際海運センター、中国国内の主要な地方国際空港所在地であり、中国人民解放軍海軍北海艦隊司令部のある軍港でもある。
- (14) 平遙（へいようし、中国語：平遥市、英語：Pingyao）は中国山西省晋中市平遥県の古い城郭都市。省都・太原から南へ100 kmの地点にある。1997年、ユネスコの世界遺

産（文化遺産）に登録。

- (15) 麗江（れいこうし、中国語：麗江市、英語：Lijiang）は中華人民共和国雲南省西北部に位置する地級市。麗江古城はかつて少数民族のナシ族の王都であり、現在でもナシ族の人々が多く居住。またナシ族のほかにはリス族、プミ族、ペー族、イ族が居住し、漢族より少数民族の人口が多い地域となっている。1996年の大地震で大きな被害を受けたが、翌年の古い城区（麗江古城）の旧市街世界遺産への登録などを契機に復興が進められ、地震によって受けた被害はほぼ修復されている。
- (16) 杭州（こうしゅうし、中国語：杭州市、英語：Hangzhou）は中華人民共和国浙江省の省都（副省級市）。浙江省の省人民政府の所在地。中国八大古都の一つであり、国家歴史文化名城に指定されている。13世紀には世界最大の都市であった。隋代以降、江南運河の終着点として経済文化が発達し、「上に天国あり、下に蘇州・杭州あり。（上有天堂、下有蘇杭。）」とたたえられた。また、五代十国の時代、呉越国の都となり、南宋時代には事実上の首都、臨安府が置かれた。市中心部の西には国の内外より多くの観光客が訪れる世界遺産の西湖がある。
- (17) 桂林（けいりんし、中国語：桂林市、英語：Guilin）は中華人民共和国広西チワン族自治区に位置する地級市。カルスト地形でタワーカルストが林立し、絵のように美しい風景に恵まれ、世界的な観光地でもある。
- (18) 現行のものは1982年制定された「中華人民共和国文物保護法」で、全八章三三条からなる。
- (19) 中国の建築研究機構。1929年、朱啓鈴

(しゆけいきん) を中心として創設された。中国の伝統的な建築技術の振興と保存を主眼として、文献考証と現地調査の両面から研究活動を展開した。《营造法式》等の技術書や古典の編纂・出版、各地に現存する古建築の調査を行い、その成果を単行本や機関誌《中国营造学社彙刊》1～7巻(1930-45)に発表し、今日に至る中国建築史学の基礎を築いた。

- (20) 清華大学(せいかにだいがく、中国語:清華大学、英語:Tsinghua University)は、1911年に創立された北京市海淀区に所在する中華人民共和国の大学。大学の略称は清華(チンファ)。國務院教育部直属の国家重点大学であり、14の学院と56の系を有する総合大学。各界に多数の人材を輩出しており、特に技術者を大量に養成してきたため、「エンジニアの揺籃」とも称される。大学評価の世界的指標である The Times Higher Education による「世界大学ランキング2012-2013」では52位であり、中国本土では北京大学(46位)に次ぐ第2位。
- (21) 梁思成(りょうしせい)は中華人民共和国の建築史家、建築家。中国の古代建築と文化遺産の保護に尽力。中央研究院院士、中国科学院哲学社会科学学部委員。父は清朝末期の改革派である梁啓超、妻は建築家の林徽因。
- (22) 全国重点文物保护单位(全国重点文物保护单位)は、中華人民共和国の文化遺産保護制度の一つ。中華人民共和国國務院が制定した文化遺産保護制度のうち、国家級の文化遺産に対して制定される名称。現在2,351件がリストアップされている。1961年より五次にわたって公布されている。

[参考文献] (発行順)

- ・邵驥順主编『中国旅游历史文化概论』上海三联书店 1998年
- ・甘枝茅 马耀峰主编『旅游资源与开发』南开大学出版社 2000年
- ・ジョン・ドンヒョン「北京における建造物群の保護とその変様に関する研究」博士論文 2008年
- ・刘葆 胡浩主编『中国旅游地理』对外经济贸易大学出版社 2012年

[図版出典]

図1-13: 報告者撮影



図1 南鑼鼓巷 駅中の壁面地図



図2 南鑼鼓巷 駅中の門のモチーフ



図3 南鑼鼓巷 駅中の柱のモチーフ



図4 南鑼鼓巷 テーマパーク化された店



図5 南鑼鼓巷 道路を通る車両



図6 南鑼鼓巷 壁面につけられたサイン



図7 芙蓉街 テーマパーク化された店



図8 芙蓉街 道路の中央に置かれているゴミ箱



図9 芙蓉街 低く垂れ下がった電線



図10 曲阜市 新技術を用いて建設された文化館



図11 曲阜市 3ヶ月で閉鎖した文化館



図12 曲阜市 取り壊された商店街



図13 曲阜市 古い中国の建築スタイルによって新たに建設された商店街の例